



# グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定

- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの概要, 1 ページ](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの前提条件, 4 ページ](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションのタスクフロー, 4 ページ](#)

## グローバルダイヤルプランレプリケーションの概要

グローバルダイヤルプランレプリケーションを使用して、クラスタ間検索サービス (ILS) ネットワーク全体のグローバルダイヤルプランを作成します。グローバルダイヤルプランレプリケーションを有効にする場合、1つのクラスタにダイヤルプランのコンポーネントを設定します。設定すると、ILS によって ILS ネットワーク全体にその情報が複製されます。

グローバルダイヤルプランレプリケーションを有効にすると、ILS ネットワーク内の各 ILS クラスタはそれぞれのグローバルダイヤルプランデータ（ローカルに設定されたグローバルダイヤルプランデータ、他のクラスタから学習したデータを含む）を ILS ネットワークにアダプタイズします。グローバルダイヤルプランデータには次のものが含まれます。

- ディレクトリユニバーサルリソース識別子 (URI)
- 代替番号
- アダプタイズされたパターン
- PSTN フェールオーバー
- ルート文字列
- 学習したグローバルダイヤルプランデータ
- インポートしたグローバルダイヤルプランデータ

## ディレクトリ URI

[ILS 経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS) ] オプションを選択すると、ローカルに設定されたディレクトリ URI の完全なカタログが ILS によってアドバタイズされません。URI ダイヤリングの設定方法の詳細については、[URI ダイヤリングの概要](#)を参照してください。

## 代替番号

代替番号を使用すると、ILS ネットワーク内の任意の場所からダイヤルできる、グローバルにルーティング可能な番号を設定できます。Cisco Unified Communications Manager では、次の 2 種類の代替番号を作成できます。

- エンタープライズ代替番号
- +E.164 代替番号

## アドバタイズされたパターン

アドバタイズされたパターンを使用すると、一定範囲のエンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号の集約されたルーティング手順を作成し、そのパターンを ILS ネットワーク全体に複製できるため、ILS ネットワーク内の全クラスタがそのパターンを認識できます。アドバタイズされたパターンは、代替番号ごとに個別にルーティング情報が設定されるのを防ぎます。アドバタイズされたパターンは、そのパターンが設定されているローカルクラスタで使用されることはなく、ILS からパターンを学習するリモートクラスタでのみ使用されます。また、ILS によってアドバタイズされたパターンの公衆電話交換網 (PSTN) フェールオーバー情報を設定することもできます。

## PSTN フェールオーバー

Cisco Unified Communications Manager は、PSTN フェールオーバー番号を使用して、ILS から学習したパターン、代替番号、またはディレクトリ URI に発信されたコールのみ再ルーティングしません。Cisco Unified Communications Manager は、ローカルに設定されたパターン、代替番号、またはディレクトリ URI に発信されたコールの場合、PSTN フェールオーバー番号にコールを再ルーティングしません。

グローバルダイヤルプランレプリケーションを有効にすると、学習したディレクトリ URI、学習した番号、および学習したパターンの PSTN フェールオーバールールを複製するように ILS を設定できます。発信コールのダイヤル文字列が学習したパターン、学習した代替番号、または学習したディレクトリ URI と一致し、Cisco Unified Communications Manager が SIP トランク経由でコールをルーティングできない場合、Cisco Unified Communications Manager は、発呼側の自動代替ルーティング (AAR) CSS を使用して、関連付けられた PSTN フェールオーバー番号にコールを再ルーティングします。

## ルート文字列

ILS は ILS ネットワークにローカルルート文字列をアドバタイズします。グローバルダイヤルプランデータの各要素は、その要素のホームクラスタを特定するルート文字列に関連付けられます。リモートクラスタは、ルート文字列と SIP ルートパターンを使用して、ILS ネットワーク内

のさまざまなクラスタへのルーティングを行います。リモートクラスタのユーザが ILS から学習したディレクトリ URI または代替番号をダイヤルすると、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたルート文字列を SIP ルートパターンと適合して、その SIP ルートパターンで指定されているトランクにコールをルーティングします。

ユーザがクラスタにルート文字列を割り当てると、ILS は、そのルート文字列を同じクラスタ（ローカルに設定されたディレクトリ URI、代替番号、アドバタイズされたパターン、PSTN フェールオーバー情報を含む）に対してローカルである全グローバルダイヤルプランデータに割り当てます。



(注) SIP ルートパターン名にダッシュが含まれる場合、ダッシュ間に数字が含まれていないことを確認する必要があります。ただし、ダッシュが2つ以上ある場合は、文字と数字または文字のみの組み合わせを使用できます。

SIP ルートパターンの良い例と悪い例は次のとおりです。

良い例：

- abc-1d-efg.xyz.com
- 123-abc-456.xyz.com

悪い例：

- abc-123-def.xyz.com
- 1bc-2-3ef.xyz.com

### 学習したグローバルダイヤルプランデータ

Cisco Unified Communications Manager は、ILS から学習したすべてのグローバルダイヤルプランデータをローカルデータベースに保存します。ILS は、ローカルに設定されたデータを複製するのに加えて、ローカルクラスタが ILS ネットワーク内の他のクラスタから学習したすべてのグローバルダイヤルプランデータをアドバタイズします。このため、すべてのアドバタイズされたデータが ILS ネットワークの各クラスタに届きます。学習したグローバルダイヤルプランデータには、学習したディレクトリ URI、学習した代替番号、学習したパターン、学習した PSTN フェールオーバールール、学習したルート文字列が含まれます。

Cisco Unified CM の管理では、次のタイプの学習したグローバルダイヤルプランデータを確認できます。

- 学習した代替番号
- 学習したエンタープライズおよび +E.164 パターン
- 学習したディレクトリ URI

### インポートしたグローバルダイヤルプランデータ

Cisco Unified Communications Manager では、CSV ファイルのグローバルダイヤルプランデータを ILS ネットワーク内の任意のハブ クラスタにインポートできます。ILS では ILS ネットワーク全体にインポートしたグローバルダイヤルプランデータが複製されるため、Cisco Unified Communications Manager と Cisco TelePresence Video Communications Server またはサードパーティコール制御システムとの相互運用が可能になります。インポートしたグローバルダイヤルプランデータには、CSV ファイルから手動でインポートしたディレクトリ URI、+E.164 パターン、PSTN フェールオーバー ルールが含まれます。



(注) インポートしたデータには、Cisco Unified Communications Manager に手動でインポートしたグローバルダイヤルプランデータのみ含まれます。インポートしたグローバルダイヤルプランデータには、ILS から学習したデータが含まれません。

## グローバルダイヤルプランレプリケーションの前提条件

「[ILS 設定のタスクフロー](#)」の ILS ネットワークを設定するための手順に従います。

## グローバルダイヤルプランレプリケーションのタスクフロー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする</a> , (5 ページ) .	参加している ILS 対応のクラスタ間でダイヤルプラン情報を共有できるように、グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にします。
ステップ 2	<a href="#">代替番号の設定</a> , (6 ページ) .	(オプション) クラスタ間でダイヤル可能な代替番号を設定するには、代替番号のレプリケーションを設定します。
ステップ 3	<a href="#">代替番号のアドバタイズパターンの設定</a> , (7 ページ) .	(オプション) パターンを使用して、代替番号を集約するには、アドバタイズされたパターンをセットアップして、パターンの PSTN フェールオーバールールを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<a href="#">PSTN フェールオーバーの設定, (8 ページ)</a> .	(オプション) 特定のディレクトリ URI または代替番号の PSTN フェールオーバー番号をセットアップするには、特定の電話番号に関連付けられているすべてのディレクトリ URI および代替番号の PSTN フェールオーバー番号として代替番号を指定します。
ステップ 5	<a href="#">ルートパーティションの割り当て, (9 ページ)</a> .	(オプション) ILS を通して、ルートパーティションをローカルクラスタが学習する代替の番号およびパターンに指定します。
ステップ 6	<a href="#">学習パターンのブロック, (10 ページ)</a> .	(オプション) Cisco Unified Communications Manager のローカルクラスタで、学習した代替番号や、学習した代替番号パターンにコールをルーティングできないようにするには、ローカルブロックルールを設定できます。
ステップ 7	<a href="#">学習されたデータに対するデータベース制限の設定, (11 ページ)</a> .	Cisco Unified Communications Manager がローカルデータベースに書き込むことができる学習したオブジェクト数を判断するために、データベース制限を設定します。
ステップ 8	<a href="#">グローバルダイヤルプランのデータをインポート, (12 ページ)</a> .	(オプション) ILS ネットワークで、Cisco TelePresence Video Communication Server またはサードパーティ コール制御システムと相互運用するには、他のシステムの CSV ファイルのディレクトリ URI カタログから、ILS ネットワークのハブクラスタにインポートします。

#### 次の作業

クラスタ全体でディレクトリのユニバーサルリソース識別 (URI) をダイヤルするには、ローカルクラスタに URI ダイアルをセットアップします。詳細については、[URI ダイヤリングの概要](#)を参照してください。

## グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする

ローカルクラスタのグローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にするには、次の手順に従います。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2** Cisco Unified CM の管理から、[詳細機能 (Advanced Features)] > [ILS 設定 (ILS Configuration)] を選択します。
- ステップ 3** [ILS 設定 (ILS Configuration)] ウィンドウで、[グローバルダイヤルプランレプリケーションデータとリモートクラスタの交換 (Exchange Global Dial Plan Replication Data with Remote Clusters)] のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [アドバタイズルート文字列 (Advertised Route String)] テキストボックスで、ローカルクラスタのルート文字列を入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## 次の作業

[代替番号の設定, \(6 ページ\)](#) .

## 代替番号の設定

エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号を作成し、電話番号と代替番号を関連付けます。代替番号をダイヤルすると、関連する電話番号に登録されている電話機の呼び出し音が鳴ります。



- 
- (注) 設定したそれぞれの代替番号は、単一の電話番号に関連付ける必要があります。ただし、その電話番号はエンタープライズ代替番号と +E.164 代替番号の両方に同時に関連付けることができます。
- 

## はじめる前に

[グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする, \(5 ページ\)](#) .

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します。
- ステップ 2** [電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウから、代替番号を関連付ける電話番号を検索して選択します。
- ステップ 3** [電話番号設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウから、割り当てる代替番号のタイプに応じて次のいずれかのオプションをクリックします。
- [エンタープライズ代替番号の追加 (Add Enterprise Alternate Number)]

• [+E.164 代替番号の追加 (Add +E.164 Alternate Number) ]

- ステップ 4** [番号マスク (Number Mask) ] フィールドで、電話番号に適用する番号マスクを入力します。  
[代替番号 (Alternate Number) ] フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が番号マスクを適用した後にどのように代替番号が表示されるかが示されます。
- ステップ 5** (オプション) 代替番号のローカルルーティングを有効にするには、次の手順を実行します。
- [ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route Partition) ] チェック ボックスをオンにします。
  - [ルートパーティション (Route Partition) ] ドロップダウン リストから、ローカル コーリング サーチ スペースに割り当てられるルートパーティションを選択します。
- ステップ 6** (オプション) 番号パターンを使用してこの代替番号のクラスタールーティングを設定する場合、[保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ 7** (オプション) この代替番号のクラスタールーティングを設定する場合、代替番号の [ILS 経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS) ] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 8** (オプション) この代替番号に PSTN フェールオーバー番号を割り当てる場合、[PSTN のフェールオーバー (PSTN failover) ] ドロップダウン リストから、PSTN フェールオーバーとして番号を割り当てます。
- ステップ 9** [保存 (Save) ] をクリックします。

#### 次の作業

[代替番号のアドバタイズパターンの設定, \(7 ページ\)](#) .

## 代替番号のアドバタイズパターンの設定

代替番号の範囲を集約してクラスター検索サービス (ILS) ネットワークにアドバタイズするパターンを作成するには、次の手順を実行します。

#### はじめる前に

[代替番号の設定, \(6 ページ\)](#) .

#### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing) ] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication) ] > [アドバタイズパターン (Advertised Patterns) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [アドバタイズパターンの検索と一覧表示 (Find and List Advertised Patterns) ] ウィンドウから、次のタスクのいずれかを実行します。
- 既存の番号パターンの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find) ] をクリックし、結果のリストから既存のアドバタイズパターンを選択します。

- 新しいアドバタイズパターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

- ステップ 3** [アドバタイズパターンの設定 (Advertised Pattern Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

### 次の作業

[PSTN フェールオーバーの設定, \(8 ページ\)](#) .

## PSTN フェールオーバーの設定

ディレクトリ URI または代替番号の PSTN フェールオーバー番号を割り当て、PSTN フェールオーバー番号を ILS ネットワークにアドバタイズするには、次の手順を実行します。リモートクラスターでは、学習ディレクトリ URI または学習代替番号へのコールに PSTN フェールオーバー番号を使用できます。

### はじめる前に

[代替番号のアドバタイズパターンの設定, \(7 ページ\)](#) .

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します。
- ステップ 2** [電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウから、PSTN フェールオーバー番号を割り当てるディレクトリ URI または代替番号に関連付けられる電話番号を検索して選択します。  
が表示されます。
- ステップ 3** (オプション) PSTN フェールオーバーとして使用する代替番号がない場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、割り当てる代替番号のタイプに応じて次のオプションのいずれかを選択します。
- [エンタープライズ代替番号の追加 (Add Enterprise Alternate Number)]
  - [+E.164 代替番号の追加 (Add +E.164 Alternate Number)]
- ステップ 4** [PSTN のフェールオーバー (PSTN Failover)] ドロップダウンリストで、PSTN フェールオーバーとして使用する代替番号を選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。  
Cisco Unified Communications Manager は、その PSTN フェールオーバー番号を電話番号に関連付けます。グローバルダイヤルプランレプリケーションは、電話番号に割り当てられるすべてのディ



レクトリ URI および代替番号の PSTN フェールオーバー番号として、その番号を ILS ネットワークにアドバタイズします。

### 次の作業

[ルートパーティションの割り当て, \(9 ページ\)](#) .

## ルートパーティションの割り当て

学習した番号と学習したパターンをパーティションに割り当てる必要があります。パーティションを独自に定義するか、事前定義されたデフォルトのパーティションを使用できます。Cisco Unified Communications Manager では、次の、学習した代替番号と番号パターンの事前定義パーティションも同時にインストールされています。

- [学習したグローバル企業番号 (Global Learned Enterprise Numbers) ]
- [学習したグローバル E.164 番号 (Global Learned E.164 Numbers) ]
- [学習したグローバル企業パターン (Global Learned Enterprise Patterns) ]
- [学習したグローバル E.164 パターン (Global Learned E.164 Patterns) ]



(注) ヌルパーティションに学習した番号または学習したパターンを割り当てることはできません。

ルートパーティションを、ILS のグローバルダイヤルプランレプリケーション機能を介して Cisco Unified Communications Manager が学習した代替番号とパターンに割り当てるには、次の手順を実行します。

### はじめる前に

[PSTN フェールオーバーの設定, \(8 ページ\)](#) .

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing) ]>[グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication) ]>[学習した番号とパターンのパーティション (Partitions for Learned Numbers and Patterns) ]を選択します。
- ステップ 2** [学習した番号とパターンのパーティション (Partitions for Learned Numbers and Patterns) ] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 3** [保存 (Save) ] をクリックします。

### 次の作業

- (任意) [学習パターンのブロック](#), (10 ページ)。
- [学習されたデータに対するデータベース制限の設定](#), (11 ページ)。

## 学習パターンのブロック

コールを学習した番号または学習したパターンにルーティングする前に、ILS はローカルブロッキングルールがダイヤル文字列に一致するかどうかを確認します。ブロッキングルールに一致した場合、Cisco Unified Communications Manager はコールをルーティングしません。

ローカルクラスタがコールを特定のエンタープライズ番号および+E.164 代替番号、あるいは ILS で学習された番号パターンにルーティングしないようにするブロッキングルールを設定するには、次の手順を実行します。

### はじめる前に

[ルートパーティションの割り当て](#), (9 ページ)

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランの複製 (Global Dial Plan Replication)] > [学習した番号とパターンのブロック (Block Learned Numbers and Patterns)] を選択します。  
[ブロックされた学習パターンの検索と一覧表示 (Find and List Blocked Learned Patterns)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- 既存の学習パターンの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のブロックされた学習パターンを選択します。
  - 新しいブロックされた学習パターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [ブロックされた学習パターン (Blocked Learned Pattern)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

### 次の作業

[学習されたデータに対するデータベース制限の設定](#), (11 ページ)。

## 学習されたデータに対するデータベース制限の設定

データベース制限を設定します。これにより、Cisco Unified Communications Manager がローカルデータベースに書き込みできる学習されたオブジェクトの数が決定されます。

### はじめる前に

- ルートパーティションの割り当て、(9 ページ)。
- (任意) 学習パターンのブロック、(10 ページ)。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。  
が表示されます。
- ステップ 2** [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、パラメータを設定するサーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[シスコ クラスタ間検索サービス (アクティブ) (Cisco Intercluster Lookup Service (Active))] を選択します。  
サービスがアクティブと表示されていない場合は、Cisco Unified Serviceability でサービスをアクティベートしたことを確認します。ILS をアクティベートする方法については、関連項目を参照してください。
- ステップ 4** [クラスタ全体のパラメータ (Clusterwide Parameters (ILS))] セクションで、[データベース中の学習したオブジェクトの ILS 最大数 (ILS Max Number of Learned Objects in Database)] サービス パラメータを見つけます。  
**ヒント** パラメータに関する情報については、パラメータ名をクリックするか、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに表示される疑問符をクリックします。
- ステップ 5** [データベース中の学習したオブジェクトの ILS 最大数 (ILS Max Number of Learned Objects in Database)] パラメータの上限値を設定します。  
データベース サービス パラメータ中の学習したオブジェクトの ILS 最大数により、ILS を通じて学習されたデータを Cisco Unified Communications Manager がデータベースに書き込めるエントリの最大数が決定されます。サービス パラメータのデフォルト値は 100,000 で、最大値は 1,000,000 です。  
(注) このサービス パラメータの値を、データベースに保存されている現在の ILS 学習エントリの数より小さくすると、Cisco Unified Communications Manager は学習した ILS オブジェクトをそれ以上データベースに書き込みません。ただし、既存のデータベース エントリはそのままです。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

**次の作業**

[グローバルダイヤルプランのデータをインポート, \(12 ページ\)](#) .

**関連トピック**

[クラスタ間ルックアップサービスの設定](#)

## グローバルダイヤルプランのデータをインポート

次の手順を実行して、コール制御システムに対して、ディレクトリ URI、+E.164 パターン、PSTN フェールオーバールールを CSV ファイルから手動でインポートします。この制御システムでは、Cisco TelePresence Video Communication Server やサードパーティ コール制御などの ILS は実行していません。

**はじめる前に**

[学習されたデータに対するデータベース制限の設定, \(11 ページ\)](#) .

**手順**

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Imported Global Dial Plan Catalog)] を選択します。
- ステップ 2** [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログの検索とリスト (Find and List Imported Global Dial Plan Catalogs)] ウィンドウで、次のいずれかのタスクを実行します。
- 既存のダイヤルプランカタログの設定を変更するには、[検索 (Search)] をクリックし、結果リストから既存のカタログを選択します。
  - 新しいカタログを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog Settings)] ウィンドウの [名前 (Name)] フィールドに、インポートするカタログを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 4** (オプション) [説明 (Description)] フィールドに、カタログの説明を入力します。
- ステップ 5** [ルート文字列 (Route String)] フィールドに、カタログをインポートしているシステムのルート文字列を作成します。  
ルート文字列は最大 250 文字長の英数字であり、ドットおよびダッシュを含めることができます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択します。
- ステップ 8** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 9** [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするカタログの CSV ファイルを選択します。

インポートに使用する CSV ファイルが Cisco Unified Communications Manager と互換性があることを確認します。たとえば、バージョン 9.0(1) へのインポートをサポートする CSV ファイルは、バージョン 10.0(1) とは互換性がありません。

- ステップ 10** [ターゲットを選択 (Select the Target) ] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターン (Imported Directory URIs and Patterns) ] を選択します。
- ステップ 11** [トランザクションタイプを選択 (Select Transaction Type) ] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns) ] を選択します。
- ステップ 12** [保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ 13** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] で、[一括管理 (Bulk Administration) ] > [ディレクトリ URL とパターン (Directory URIs and Patterns) ] > [インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns) ] を選択します。
- ステップ 14** [ファイル名 (File Name) ] ドロップダウンリストで、インポートするカタログを含む CSV ファイルを選択します。
- ステップ 15** [インポートしたディレクトリ URI カタログ (Imported Directory URI Catalog) ] ドロップダウンリストで、[インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog) ] ウィンドウで名前を付けたカタログを選択します。
- ステップ 16** [ジョブの説明 (Description) ] テキストボックスで、実行するジョブの名前を入力します。
- ステップ 17** 次のいずれかの手順を実行します。
- ジョブをただちに実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately) ] オプションを選択し、[送信 (Submit) ] をクリックします。
  - 所定の時刻に実行するようにジョブをスケジュールするには、[後で実行 (Run Later) ] ラジオ ボタンをオンにして、[送信 (Submit) ] をクリックします。

[後で実行 (Run Later) ] オプションを選択した場合は、ジョブの実行時刻をスケジュールするのに、一括管理ジョブスケジューラーを使用する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager は、インポートしたすべての +E.164 パターンを、グローバルな学習された +E.164 パターンパーティションに保存します。

